

認定ワークショップデザイナー

興味があることの勉強ってこんなに楽しいんですね

コンテンポラリーダンサー、振付家として活躍してきた吉福敦子さん。2009年頃から「ワークショップをやってほしい」という依頼が増えたが、ダンスを習う教室とワークショップの違いがわからず、もやもやしていた。青山学院大学のワークショップデザイナー育成プログラムを知り、徹底的に学びたい自分にびったりと受講し、1年に終了。その後、1年間の実績を積んだ上で認定ワークショップデザイナーの資格を取得した。

■ダンスが初めての人も面白い作品ができる

プログラムを受講していちばん変わったのは、自分の世界が大きく広がったこと。ダンス関係だけの人脈だったのが、ビジネス、教育など、異分野の人たちへと大きく広がった。逆に相手も、ダンサーは珍しいと面白がってくれる。

ワークショップって何？という疑問も晴れた。ダンスはスポーツと同様、習い鍛えられることが多い、それまではつい教えてしまっていた。教えなくても、ダンスが初めての人も、同じ地平でこんなに面白いものができるんだという、エポックメイキングな体験だった。

■親子、ビジネスマン、80代のマダムも参加

プログラム受講以降は、いっしょに創る、いっしょに楽しむという視点での開催が増えてきた。3・11のあと、劇場で何かできないか、人々の固まった気持ちをほぐすことをしようと、親子のワークショップを半年間続けて開催。

芦屋市の美術博物館では「Paper Lovers」紙にふれる、からだ」として、紙にまつわる作品を作



ダンサー／振付家

吉福敦子さん

幼少からモダンダンス、クラシックバレエ、ボディワークなどを学ぶ。1985年～89年黒沢美香&ダンサーズ所属。89年、川口隆夫とATA DANCE結成。96年よりソロ活動。11年からの「Unit Dance Bookshelf」ではジャンルを越えたコラボも多数。
http://www.studiogoo.net/



↑ SHIBAURA HOUSEで行なったビジネスマン向けワークショップ

トを持ってメモや絵で特徴を取材して、その後で動物の真似ではなく、特徴をダンスで表現する。親チームと子供チームで発表し、盛り上がった。ビジネスマン対象では、名刺のやり取りをヒントに、自分の名前を体で表現してみる。体を動かして字を書くだけでダンスができる。発想を転換し頭を軟らかくする取り組みだ。

地元のコミュニティカフェでは、しりとりをしながらのダンスなどをストレッチと合わせ、80代の2人のマダムも常連で楽しんでいる。

■チャンスを多く得られる資格とを感じる

ワークショップからダンスの裾野を広げる試みもしている。1つは、MOMAで開発された対話型鑑賞。美術作品を皆で観察し、感じたことを言葉にして対話しながら鑑賞する。ダンスの世界でそれができないか模索している。もう1つは、英国で発達したコミュニティダンス。衰退した国を立て直すには国民のクリエイティビティがきっかけになると、誰でもどこでもダンスができるという取り組みだ。病気になる、薬と同時に、あなたは週何回ダンスをするようにと処方箋に書かれるそう。

「興味があることの勉強ってこんなに楽しいんですね。大学受験以来初めてというくらい勉強しました。そう思うものに出会えたのは、幸運や今までの積み重ねがあるからでしょう。認定ワークショップデザイナーは公的機関から素性のしつかりとした資格と評価され、チャンスを得やすいと感じます。もちろんその後の活動は実力次第。学び続けることが大切です。みなさんも学びを楽しんでください！」

井の頭自然文化園の動物園での「動物観察ダンス」団。飼育員から動物のレクチャーを受け、観察ノ